

退公連耶麻支部会報

No. 5 5

発行 . . . 支部長 矢部 宥一

発行所 . . . 耶麻支部広報

< 巻頭言 >

退公連の活動を続けられる喜び

支部長 矢部 宥一

会員の皆様、それぞれに新しい年をお迎えの事と存じます。自分自身は年末から「かぜの症状」に悩まされ、体調不良で新年を迎えることになり、症状が治まらず長引く常態が続き、高齢になったことを実感する新年となりました。「雪の少ない年になるといいな」との淡い希望を持ちながらこの冬を過ごしています。



ところで、退公連の活動を振り返って見ますと、昨年度までのコロナ禍での自粛を乗り越え、活動も予定通りに実施できる状態になったことは喜ばしいことと思っております。5月の支部総会に始まり、女性部関係の行事、絵手紙を描く会、年金部では4年ぶりに研修会が開催、福祉厚生部では運転免許返納制度についての講話会と支部関連の行事が予定通りできたことは、各部長さんのおかげと感謝しています。

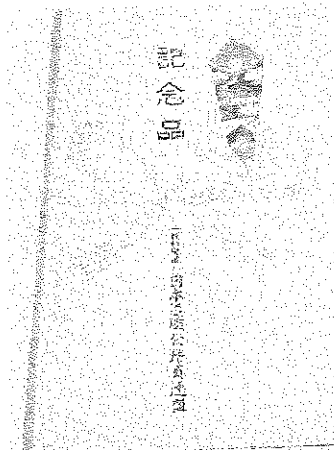
私は10月24日から一泊で、国会議員への要望活動と退公連全国大会に参加してきました。県本部から会長他3名、各支部からは北会津、耶麻、東白川の支部長3名参加でした。北会津支部の成田支部長と一緒に電車で行きましたが、十年以上も東京に行っていなかったので何となく不安でした。成田さんにお世話になりいろいろ勉強してきました。24日は本県関係の参議院議員への要望、25日は衆議院議員への要望に議員会館に行ってきました。午後は文教シビックホールでの全国大会に参加しました。詳しくは「退職公務員新聞」や県本部の会報でご覧いただきたいと思います。

全国的に会員減少が進んでいる現状で、会員減少が小さい各県の支部が表彰されました。耶麻支部も表彰の対象になり、全国大会での表彰となりました。これも皆様のおかげですので一緒に喜びたいと思います。

新年を迎えた初日から能登地震の発生、航空機事故と続き、世界を見ると戦争や紛争、忘れないうちに何度もやってくる災害には、心が折れそうになります。それでも退公連の活動を続けられることに喜びを感じながら、退公連の会員のつながりをより深めていく活動を進めていきたいと思っております。今年もご協力宜しくお願いいたします。

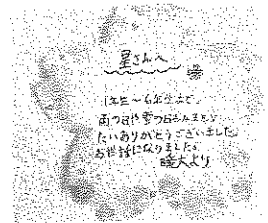
全国表彰受賞

今年度の退公連全国大会（東京都）で、耶麻支部が「退会する会員の割合が少ない団体」ということで、全国表彰されました。



「おことわりをした表彰状を手に」

星 勝子



第16回交通安全市民大会にて、思いがけなく表彰状を頂きました。

小学生の朝の登校を見守る仕事で、雨の降る日も風の強い日も、酷暑の夏の心地良い朝もありました。長くて短い10年間でした。

孫も中学生、高校生、大学生となり今頃きつと強く目標に向かって元気であるだろうと近所の子ども達を見て思い出しています。

弁当を忘れた子には、お弁当を作り届けたこともありました。忘れ物をした子には、この次は忘れないようにと帰宅をさせることはしませんでした。泣きながら集合する子もいました。

まず、朝の笑顔とあいさつで私も子ども達も目をパッチリと登校です。横断した後には、「行ってらっしゃーい」と声をかけます。その後が私の1人散歩です。歩きながら色々と考えたり唄ったりと、それは楽しいひと時なのです。どの子も自分のよさに気づき、強い人になるようにと思う近頃です。苦しむことも涙を流すことも大切なことです。

今他国で戦場となっている姿に、必ず死亡する人、血を流す人、涙を流す人と遠い国のことと思っている私ですが、心が痛み悲しみがこみあげてくるのです。一日も早く平和な生活にもどれるようにと祈る思いです。

苦あれば楽あり

年金部副部長 穴澤 壽彦

依存症にもいろいろある。アルコール、パチンコ、スマホ依存症等々である。これらに一度のめり込むと、そこから脱出することは、かなり困難になってしまう。

現在は、スマホ依存症が多いようだが、とくに乗り物の中では。老若男女を問わず、スマホに熱中しているため、他人は全然眼中にないようである。

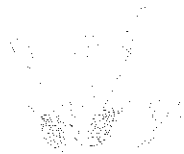
一方、子供達の日常の楽しみは、テレビからスマホに代わってしまった。学校から帰宅すると、スマホと友達になり、無駄な多くの時間を過ごしてしまう。日本人には近視が多いのも理解できる。スマホに弊害があるといっても、スマホとの付き合い方が下手なのだ。効率のよい活用の仕方をすればよいのだ。見る内容の取捨選択に注意すれば、全然問題はない。

話題を変えるが、今の世は高度成長期の頃とは異なり、社会情勢が目まぐるしく変化し、周囲の動きがスピーディーであり、人にはストレスがたまりやすく、忍耐力を必要とする。例えば、子供にとっては、学校での学習は、自分に与えられた「仕事」であり、それを上手に成し遂げることが出来るかどうかは、本人の努力次第であり、その後の人生にも大きな影響を及ぼすものと考えられる。それ故、子供には幼少期から、物事には責任を持ち、正面から取り組ませ育成することが大事だと思う。

最後に、体育祭の中に、「二人三脚」という種目があるが、この競技の持つ常に一緒に行動する考え方を生活の場に取り入れて、親子の「絆」を深め、互いに努力を高めていけば、子供自身も必ず成長するだろうし、何事もプラスに転じていく可能性が高いと信じている。

[諺] Strike white the iron is hot 鉄は熱いうちに打て (好気を逃すな)

四季折々



小林 一裕

テレビの影響で歳時記を買い生活の一風景を俳句にしてみると、これがなかなかよいのです。後から読み返すのがおもしろい。恐縮ですが、いくつかの拙句とお付き合い願います。

「道頓の偉業に浸る秋の風」昨年九月、妻と大阪は道頓堀にいった時の一句です。何日か前に阪神が優勝したのですが、その騒ぎは収まっていました。道頓堀はその昔安井道頓という人が開削した運河で彼を主人公にした小説もあります。道頓堀を走る遊覧船でその偉業に思いを巡らせました。「草刈り機むらさきの花を残し刈る」一反歩程の畑で野菜を作っています。何せ山の中、獣や雑草との格闘ですが、それでも毎年スイカとトウモロコシはよくできます。草刈り機のエンジンをふかしいぎ草刈りへ。所々にきれいな花が咲いているのです。「十五夜を背にしてバッテリーボックスへ」中秋の名月の日がナイターの試合日でした。四十年ピッチャーをやってきましたが最近調子が上がらず、それならばバットで貢献しようと気合を入れたときの一句です。週2回の朝の練習、試合では心地よい緊張感を味わいます。夜の宴会が主目的でもある他県への交流遠征もあります。ソフトボールはまだ現役です。「孫を抱くばあばの笑顔冬ぬくし」ある日、二歳の孫がもじもじしながら妻にささやきます。「ばあばギュッとして！それから『大好き』って言って」心中察した妻は、心を込めていつも以上のギュッと「だあい好き！」を言いました。二人の笑顔がはじけます。平和な時間を大切にしたいと思いつながらの一句です。

「前に孫後ろに母と初詣」辰年のスタートに当たり家族で初詣をした時の一句です。皆元気で、今年も四季折々の風景を刺激にして、好日を積み重ねていきたいと思った元日です。この日の夕方、能登半島地震が起きました。一日も早い復興をお祈りします。

賛助会費について

会計主任 宮城 悠子

令和5年度の地区内の小・中・高の各学校からの賛助金のご協力は下の表のとおりです。

学校を回ってくださった会員の皆様方、ありがとうございました。退公連の活動に有効に使わせていただきます。

記



令和5年度 賛助会費の集計

項目	学校名	小学校	中学校	高等学校	合計
学校数		19	9	3	31校
人数		193	118	47	358人
金額		50,770円	33,672円	8,558円	93,000円



今年のテーマ

安部 一之

多忙な一年でした。

何が多忙かと問われると、些か困惑してしまいますが、自分だけが忙しくしていたのかも知れませんが。年を経ると、気は焦るのですが身体が動かない一年でした。自分で歩いているのに、地面にしっかり足音を立てていなかったように思います。

自分のやる事は、他人に迷惑をかけずにを、今年のテーマにしましたが、どうでしょうか。

昨秋、五十数年の車生活を卒業しました。現在、歩行訓練をしている。歩くことは、身体に良いと強がりを行いながら、些か痛い右膝に気を使いながら、毎日少しずつ歩いています。

今までは車目線で見ていたものを、今度は歩きの目線での生活に移りました。自分の目にどう映るのか、じっくり見詰めていきたいと思っています。

広くなった 車庫を見つめて

寂しくなったのか 安堵したのか わからないこの頃

「年度末のこの時期に思うこと」

事務局長 青山 邦夫

今は、どの団体・組織でも会員数の減少や役員の成り手不足という課題を抱えているのではないだろうか。私も退職後、いくつかの退職関係団体や町内会の役員として活動しているが、年々新入会員が少なくなり、ゼロの年度もある。それと共に、町内会の役員を引き受ける人を探すのに大変な苦勞をしている。

できそうな人に期待して声を掛けるのだから、「忙しい」の一声で断られると、内心（それは皆同じですよ、いろんな違いはあるでしょうが。）と言いたくなる。「どうせ誰かがやるだろう」の他人任せではなく、積極性が欲しい。ヒマな人が役員をやっているわけではない。それなりの使命感を持ってやっているのだから。退公連の場合、退職してからの再任用（再雇用）の五年間が新入会員勧誘の支障になっていると言われるが、入会の意欲のある人は再任用で勤務しながらも会員として活動している。入会すれば、仕事だけでなく、退公連の活動の楽しさもよく分かるのだが…。

編集後記

広報副部長 青山 邦夫

未だにコロナ感染やインフルエンザの流行に注意しながらの活動の中、矢部支部長の巻頭言をはじめ、会員の皆様からそれぞれユニークで面白い原稿が届きました。他方面でもご多忙の中、原稿をお寄せいただき、ありがとうございました。会報は退公連の活動の情報は元より、会員の絆にも結びつくものでありますので、今後ともご協力の程を、よろしく願いいたします。